

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+2	+2	+4	令和8年度の目標								
令和7年度の結果	-2	+1	-1	令和7年度の結果	-0.3	-5.2	+4.8	+6.8	+0.7	+7.3	-3.6	-3.7
令和6年度の結果	+2	+4	+6	令和6年度の結果	+1.4	-4.8	-1.2	-2.4	-5.6	-10.1	+0.2	+0.8
令和5年度の結果	-1	+2	+1	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標						令和8年度 目標達成に向けた取組		
内容												
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、毎時間応用問題に取り組んだ結果、全国、江戸川区の学力テストの結果において、特に算数のA層の割合が、昨年度よりも増えた。 ○「つかむ・考える・学び合う・まとめる」の4学習過程に基づいた授業改善を行った結果、先の見通しをもち、安心して授業へ取り組むことができた。 【課題】 ○A層の割合は増えたが、B層の割合が低く、学力の開きがある。 ○D層の底上げが伸び悩んでいる。基礎・基本のさらなる定着が必要である。 			<p>○見える学力（知識・技能）を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国、江戸川の学力テストで、東京都、江戸川区の平均正答率を上回る。 ○学力向上では、①EDOSクの活用②放課後補習教室の実施③よむYOMUの継続活用④学力調査の分析などを行う。 ○研究推進では、①4学習過程の実施②ユニバーサルデザイン化授業③学び合いの共有などを行う。 ○学力向上プロジェクトでは、①算数授業スタンダードの活用②学習カルタの活用③算数ドリル「アイテム」の活用などを行う。 						<p>○問題解決型学習の4学習過程（つかむ、考える、学び合う、まとめる）の授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研究（授業力向上）を図る。 ○学力テスト（全国、江戸川区）の結果の分析による課題抽出を行い、情報を共有する。 ○よむYOMUワークシートの活用により、文章の読み取り機会を増やす。 ○放課後補習教室の実施により、A、B層への学習指導アプローチを行う。 ○江戸川StudyWeekの毎学期実施により、ドリルワークへの取り組みを徹底する。 		
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の練習を継続指導したことや、定着を確かめるミニテストを何回も実施したことで漢字の定着率が上がった。 ○学び合いの4観点（つかむ・考える・学び合う・まとめる）を毎時間行うことで、学習の見通しをもつことができ、学習への意欲に繋がった。 ○繰り返しがりのたし算や繰り下がりのひき算では、思考過程を図示して、手や目と照してどこで何度も反復練習を重ねた結果、計算力が上がった。 【課題】 ○片仮名表記が難しく、定着率が低い。 ○自分の考えを文章に表すのが苦手な児童が多い。 			<p>○自分の考えを文に表すことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章問題から、必要な情報を正しく読み取り、立式させる。 						<p>○短い文を書かせる機会を増やし、文章慣れ親しませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章問題から、必要なキーワードを探し出し、正しく立式できるようにさせる。 		
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿題や授業内で、九九の暗唱やマス計算を繰り返し行ったことで、9割以上の児童が九九を1分30秒以内に暗唱することができる。 【課題】 ○数直線の目盛りの読み取りを間違えてしまう割合がある。 ○水のかさや、長さ等の単位の換算ができない割合がある。 ○言葉が少なく、様子や考えを詳しく表現できないことがある。 			<p>○数直線の目盛りの読み方ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位変換ができるようにする。 ○言葉を増やして、様子や考えを具体的に表現できるようにする。 						<p>○算数科では、数直線や図、グラフや表などを用いて表現し、数直線の扱いに慣れる。さらに、5とびや10とび等の教え方を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プリント学習やドリルワーク学習を繰り返し行う。 ○週に1回、家庭学習に日記を組み込んだり、読書活動を行ったりして、読書を増やす。 		
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字や計算など、毎日繰り返しの学習に対し、粘り強く最後まで取り組もうと努力できるが増えた。 ○授業において勝手に自分の考えを表現できるようになった。 【課題】 ○算数では桁数の多い計算や文章題を読み解く力（抽象的な概念）が弱い。 ○国語では長い文章の読解や、自分の意見を書く力（特に文章の構成を意識した作文）に課題がある。 			<p>○学び合いの4学習過程（つかむ・考える・学び合う・まとめる）の毎時間の確実な展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特に学び合いの場面で、小集団による対話的な学び合いを重視し、お互いに友だちから学ぶ姿勢を大事にさせる。 ○授業や日常生活の中で、言葉や態度を高め読書で新しい言葉をインプットし、日記やスピーチ活動などでその言葉をアウトプットすることで読書を増やす。 ○算数では、九九の完璧な習得と、わり算の「等分」「包含」の意味理解を確実なものにする。 						<p>○つまずいた箇所まで戻り、基礎的な内容を確実に定着させること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特に算数では、具体物を用いた理解や具体的な生活場面と結び付け、丁寧に復習すること。 ○計算ミスを防ぐために、計算過程をしっかり書く習慣をつけること。 ○家庭学習の習慣化に向けて、意図的計画的な宿題の提示をする。 		
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区の学力テストでは、国語も算数も全国平均を上回った。 ○ワークシートを上位層、中位層、下位層向けに複数用意して、分ける、できる授業の実現を図った。 【課題】 ○最後まで問題を読まないことがある。 ○単位のつけ忘れが多い。 ○漢字の定着が弱い。 			<p>○基礎学力の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み書き計算力の向上。 ○4学習過程（つかむ、考える、学び合う、まとめる）で授業を展開する。 ○CD層の無回答を減らしていく。 						<p>○基礎学力向上のため、既習事項を習熟するウォーミングアップの時間を確保する</p>		
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上PJにおける伸ばすべき「学力」とは何かが明確となり、成果を出すことができた。 ○Itemの導入により、A層の発展問題の正答率が上がった。 ○知識技能を中心に押さえることで、点数アップにつながった。 【課題】 △今年度からItemを導入したが、試行錯誤をしている。使い方について、学校全体で共有し、よりよい使い方を考えていくことが大切である。 △D層の底上げが伸び悩み、EDOSクやアイテムの活用方法と連携が必要である。 			<p>○単位の記入漏れや計算ミスが多く、ケアレスミスをなくすようにウォーミングアップ等で反復練習を行った問題文に線を引きかたを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○CD層の底上げが必要であり、知識・技能・基礎力定着を徹底する。 						<p>○4学習過程（つかむ、考える、学び合う、まとめる）を徹底し、授業の見直しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○A層は習熟度別でクラスを固定化し、発展問題に取り組んでいく。 ○基礎学力の定着を図るため、既習事項をウォーミングアップで取り上げていく。 		
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「江戸川区学力調査」平均正答率の推移をみると、国語では令和6年度に比べ令和7年度のA層が5.6%増加した。また、算数では、令和6年度に比べ令和7年度は20.5%と大幅に増加し、D層C層の底上げを図ることができた。 【課題】 ○国語「全国学力・学習状況調査」平均正答率では、東京都・全国の平均値と比較すると、東京都とは-6%、全国とは-3.2%であった。また、「江戸川区学力調査」平均正答率では、全ての領域で全国・江戸川区の平均値を下回った。特に、領域3「書くこと」、領域4「読むこと」の正答率が大きく下回った。 ○算数「全国学力・学習状況調査」平均正答率では、東京都・全国の平均値と比較すると、全国+1%だったものの、東京都-5だった。また、「江戸川区学力調査」平均正答率では、全ての領域で全国・江戸川区の平均値を下回った。特に、領域1「数と計算」の正答率が大きく下回った。 			<p>○算数では、領域1「数と計算」の知識・技能を高め、「全国学力・学習状況調査」「江戸川区学力調査」の平均正答率において全国・江戸川区の平均値を上回り、東京都の平均正答率に近づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では、領域3「書くこと」、領域4「読むこと」の平均正答率を上げ、「全国学力・学習状況調査」「江戸川区学力調査」において全国・江戸川区の平均値を上回り、東京都の平均値に近づける。 						<p>○朝学習（算数タイム）でタブレット端末を活用したドリル学習、毎回の授業でのウォーミングアップでの百マス計算など継続的な取り組みを通して、領域1「数と計算」の正答率をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の課題に応じた授業の工夫を行う。また、「YOMよむ」を継続的に行うことを通じて、領域4「読むこと」の知識・技能を高める。さらに、文章の大意を掴んでペアで伝え合ったり、要約したりする活動を意図的に取り入れ、領域3「書くこと」、領域4「読むこと」の正答率をあげる。 		